

令和6年度あわらし行政評価外部評価委員会会議録（要旨）

- 1 日 時 令和6年9月25日（水） 13:30～16:30
- 2 場 所 あわらし役所 203 会議室
- 3 議 題 ・行政評価（施策）の外部評価
- 4 資 料 ・令和5年度施策評価シート等
- 5 出席者 委 員：桑原委員（会長）、達川委員、丸谷委員、山口委員、小嶋委員、
坂野委員
内部評価委員：前川副市長、渡邊創造戦略部長
総 務 部：江守部長、中辻総務課長
創造戦略部：藤田市民協働課長
市民生活部：山下部長、矢部市民課長、中道生活環境課長
健康福祉部：山田部長、宮川理事、村中福祉課長、北島健康長寿課長、
中道子育て支援課長
経済産業部：中嶋部長、宮川商工労働課長、山本農林水産課長、
翠観光振興課課長
土 木 部：大味部長、細川建設課長、山口上下水道課長、
教育委員会：岡田教育部長、堀江教育総務課長、山本文化学習課長補佐、
近馬スポーツ課長
事 務 局：西正政策広報課長、多賀政策広報課長補佐、南政策広報課主査

6 会 議

- ・委員の出席状況の報告（丸谷委員、山口委員は所用のため欠席）
- ・議事

※以下の議事録において、施策番号は<>で表記する。

ACTION4

事務局	Action4（都市）に係る施策<18>～<23>について説明
会長	Action4について意見や質問はあるか。
会長	<21>の No5 駐車場利用台数について、稼働率が上がっている。市外

	に行く人が増えていると思われるが、市としてはどのように認識しているか。
副市長	令和5年度の実績のため、アフレアのイベントでの利用者も増えていると考えている。外に行くという目的でも稼働率上がること自体はよいことであると考えている。
会長	<19>のNo5 道の駅の利用者数について、市外・市内といった利用者の内訳は把握しているか。
事務局	おおよそ半数が県内で、残りは石川県が多い。
委員	<22>の上水道事業について、責任水量の問題が新聞でも取り上げられていたが、それに係る今後の展望と内部評価委員会の意見に記載されている包括民営化についての状況をお伺いしたい。
土木部	責任水量については、毎年度あげているが、今年度も継続して県に対する重要要望として取り上げている。今後施設を更新する際には人口を考慮して、整備する見込みである。 包括民営化については、今年度の10月より委託が開始される。業務委託内容は、料金徴収や水質管理等となる。
委員	<20>の北陸新幹線関連について、関東からの帰りの便については、芦原温泉駅に止まるものが、都合のよい時間帯にないと聞いている。その利用者が少ないと、さらに減便になるという悪循環に陥るのではないか。
副市長	かがやきの利用について、できるだけ呼びかけている。 今後乗降客のデータを分析して、対応考えたい。
委員	<19>のNo4について消雪設備は今後整備予定ないのか。
土木部	坂道や小学校前などについては、消雪設備の設置を検討していきたい。

ACTION 3

事務局	Action3（教育）に係る施策<13>～<17>について説明
会長	Action3について意見や質問はあるか。
委員	<13>のNo3の学校の授業以外で英語を使う機会とはどういった場面

	か。
教育委員会	詳細はわからない。全国学力調査の中に質問があり、それに基づいている。 令和3年度と令和5年度で結果にだいぶ差がある点については、確認する。
委員	<13>の学校教育について、学校施設の改修工事がなかなか進んでいないのではないか。
教育委員会	緊急性がなかったため、改修を行っていない部分もある。 トイレや机などの学習環境改善については、かなりの費用をかけて行っている。
委員	それに関連するが、学校のネット環境が脆弱なのではないかと感じる。
教育委員会	検討する。
委員	<13>のNo7に関して、不登校児童に対するフォローはどのように行っているか。
教育委員会	いきいき教室が旧芦原庁舎にあり、不登校児童の居場所づくりの場となっている。復帰する子もいると聞いている。
委員	不登校児童と学校を繋ぐ仕組みはあるのか。学校は状況を把握しているのか。
教育委員会	いきいき教室と学校は密に情報のやり取りを行っている。
委員	外国人の子や特別支援学級の子について、支援策等どのように考えているか。
教育委員会	外国籍の子について、日本語が不自由な子に対して選任の指導員をつけている。今後そのような子が増えた場合は、支援員増やすことを検討する。 特別支援学級については、担当の先生がついており、少人数のクラスでしっかりサポートできていると考えている。
会長	子どもにフォーカスしているが、親に対する情報共有などのネットワークはあるのか。

教育委員会	いきいき教室の先生が親にもコンタクトをとっている。家から出られない子の親についてもサポートしている。 保護者間のネットワークはなく、先生を通してという形になっている。
会長	自分の子のことで悩みを抱える親は、気持ちを吐き出すだけでも気が楽になるので、支援等考えてほしい。
委員	あわら市の学力テストの状況はどうか。
教育委員会	学力水準が高く、視察に来るところも多い。
会長	<14>に関して、中学校の部活の地域移行について、1つの学校だけでは人数が足りなくて部活が成立しないという問題が今後出てくると思われるが、どのように考えているか。
教育委員会	いくつかの団体が合併の話あった。市としても今後もサポートしていく意向である。
会長	文化部についてはどうか。
教育委員会	文化部については、合併の話は今のところない。地域移行という観点では、指導者を探している。
委員	全体で何割ほどが地域移行完了しているか。
教育委員会	7割ほどが地域移行できている。来年に向けて、指導者を探しながら、全て地域移行できるようサポートしていきたい。

ACTION 1

事務局	Action1（環境）に係る施策<1>～<4>について説明
会長	Action1について意見や質問はあるか。
委員	<1>のNo11 不法投棄パトロールについて、回数を増やせるのではないか。
市民生活部	県主催のパトロールであり、市の裁量では増やせない。要望していく。
会長	<2>のKPIになるが、ごみ排出量について、かなりの削減効果が出ているように思われるが、特別な施策を実施しているのか。
市民生活部	事業者に対して、産業廃棄物と一般廃棄物の区別をしっかりとるよう

	周知したことが要因と考えている。
会長	<3>の KPI について、災害に強いまちだと考える市民の割合が下がっている。これに関して、ハザードマップの利活用を促進しているかどうかお伺いしたい。
総務部	各地区で防災マップ（避難経路・危険個所）を作成していく取組を始めた。
会長	防災への意識薄い方にいかに知ってもらうかが重要。 防災マップ作成も多くの人に参加するよう促してほしい。
会長	<4>の KPI について、消費者保護対策が充実していると考え市民の割合が下がっている傾向にある。 犯罪も多様化している中で、特に高齢者の方が犯罪に巻き込まれないように何か対策考えられるか。
総務部	近所での助け合いの力が弱まっているので、地域において防犯隊の見回り活動などが強化できるとよいと思っている。
副市長	ネット犯罪については、スマホ・タブレットよろず相談所で市民の共助の仕組みを作っている。また講習会も開催している。
委員	<4>の No11 について、空き家は周囲で増えているように感じるが、実際は減っているのか。
副市長	特定空き家として指定されるものの数は減っている。通常の空き家の数は委員の認識のとおり増えている。
創造戦略部	担当がパトロールも行い、把握を行っている。
委員	空き家バンクの利用はあるか。
創造戦略部	詳しい資料がないが、一定数の利用はある。

ACTION 2

事務局	Action2（健康）に係る施策<5>～<12>について説明
会長	Action2 について意見や質問はあるか。
委員	<5>の No10 保健センターの利用率について、下がっている要因は何か。
健康福祉部	コロナによる教室や検診の開催回数下がったことが主な要因であ

	る。また、検診についてはコロナに伴い、人数の制約を設けており、1回あたりの利用者数も減っている。
委員	<5>の No2 および No7 について、予防接種や幼児検診の受診率が100%にならない理由は何か。
健康福祉部	事情があり予防接種を受けることができない子もいるため。検診については集団検診の受診率であり、病院で受けている子もいるため。
委員	<6>の KPI の朝食を食べない中学生の割合について、私の認識よりも低く感じるが、これについてどうか。
健康福祉部	集計方法が変わったので、その影響もあると考えられる。
会長	<6>の KPI、No3 朝食欠食児童生徒割合と<13>の No2 朝食を毎日食べている児童生徒の割合の数値について、整合性がとれていないのではないか。（どちらでもない生徒児童が発生している。）
健康福祉部	調査が異なるので、集計している母数が違っているためだと考えられる。
委員	<6>に関連して、ウォーキングによる健康づくりで、アプリを利用した施策などは検討しているか。
健康福祉部	あわら市でも来年度に向けて、健康づくりに係るアプリの導入を検討していきたいと考えている。
委員	<7>の No3 のボランティアの育成について、これは何の人数なのか。
健康福祉部	社会福祉協議会から提供を受けているボランティア活動に参加している方の延べ人数である。
会長	<11>について、子育て支援施策が充実している中で、市民アンケート結果が良くないことに関して、市民に情報が届いていない理由等を分析しているか。
健康福祉部	理由の分析はできていない。子育てガイドという全般的なガイドをつくって、幅広く周知できれば良いと考えている。
会長	<11>の No2 子育て支援センターの利用者数も下がっているが要因は何か。

健康福祉部	出生数の減により、利用者も減少傾向にある。
委員	<11>の No5 に関して、放課後子どもクラブに定員数はあるか。
健康福祉部	クラブごとに定員数はあるが、基本的に全員入れるような形で対応している。
委員	クラブに入るための要件は、地域ごとに違いがあるか。
健康福祉部	特にない。
委員	夏休みなど長期の休みの間は支援員の配置を増やしているか。
健康福祉部	増員したり、勤務時間を延長したりして対応している。シルバー人材センターに派遣をお願いすることもある。
会長	<7>に関連して、地域見守り活動や民生委員について、人生での働く期間が延びて、今後ますます人材の確保が難しくなると思われる。民生委員制度などについて、現行制度の延長として考えていると、今後継続が難しいのではないか。業務内容を変更するなどの検討はされているのか。
健康福祉部	民生委員の業務量は地域ごとに偏りがある。あわら市では東部と西部に分けて協議会を設置しており、グループでの支援体制を築いており、今後強化していく必要があると考えている。任期も3年と長いので、継続して続けていけるような支援体制を考えていかなければいけないと考えている。
委員	<12>の No5 の国民年金啓発活動の推進に係る相談台帳の件数とは何か。
市民生活部	国民年金免除申請等の相談件数のことである。

ACTION 5

事務局	Action5（経済産業）に係る施策<24>～<31>について説明
会長	Action5 について意見や質問はあるか。
委員	<24>について、観光に携わっていない方も含めて、市民をあげて観光客を迎える気運情勢ができると思う。 気運情勢の施策について、どう考えているか。
経済産業部	気運情勢については、竜王戦など話題が伝わるのが、それにつなが

	るのではないかと考えている。 おもてなしという観点では、各小学校へ出前講座を行っている。
委員	市民向けではなく、あわら市にきた観光客向けのアンケート調査はないのか。
経済産業部	県が主要観光地におけるアンケート調査を実施している。あわら市では芦原温泉のみではあるが、満足度は高いと考えている。 県内の観光地に訪れた方の宿泊先調査も実施している。 観光協会の方でも目的やきっかけ等の調査を行っている。
委員	<24>の KPI である観光入込客数について、令和 6 年度の見込み数値はあるか。
経済産業部	200 万人は下回るが、それに近い数値にはなると考えている。
委員	<25>の No1 坂井北部丘陵地の耕作率について、数値が大幅に上がっている要因は何か。
経済産業部	理由を把握していない。確認しておく。
会長	<25>の今後取り組む事項として、広域的に考えていくとされているが、これは園芸カレッジ等も含めて考えるということか。
経済産業部	農業者の担い手不足について、県全体・全国の問題だと考えており、広域的に対策していかなければこの問題に対処できないと考えている。
委員	<25>に関連して、中山間地での成功例はないか。
経済産業部	水管理やウィード管理等での省力化といった事例は他県や民間での事業例はあると思われる。現状は県内での実装事例もなく、今後様子をみていく必要がある。
委員	<31>に関連して、やなせたかし展等について、もう少し PR 等できれば人が集まるのではないかと思う。 ぜひテレビともコラボして取り組んでいただきたい。
委員	<30>について、福井銀行との連携事業とはどんなものか。
経済産業部	福井銀行が事務局となっているふるさと教育と地元就職促進の取組である。高校に出向いて、社会人と高校生のグループワーク活動等を実

	施している。今後は PTA と連携して、親にも関わってもらいたいと考えている。
委員	中学生に対しても取組を行っていただきたいと思う。
経済産業部	企業パンフレットの配布などは行っている。 教育活動の中でも時間を設けたいと考えており、校長会でも話を出している。
委員	<30>の No1 インターンシップ受入企業数に関して、全て同じ企業か。
経済産業部	異なる企業である。インターンシップに行く方も高校生・大学生どちらも含まれる。
委員	企業も積極的にこういった機会を設けたいと考えているのではないか。
経済産業部	支援等はしっかりやっていきたい。
会長	<28>の No4 外国人労働者の受け入れ体制に関連して、外国人登録者の国籍はどこの方が多いか。
経済産業部	東南アジアが多い。
会長	様々な国から来ていると、災害時や税関係の手続きなどで対応が難しいのではないか。
創造戦略部	あわら国際交流友の会という市民団体があり、市内外国人向けの研修会などを実施することで支援を行っている。 市内の外国人への対応について、今後も検討していく。
会長	外国人を雇っている企業側への対応は何かしているか。
創造戦略部	連絡体制などについて、アンケート調査は実施している。
会長	どういった雇用の仕方が多いか。
創造戦略部	各企業が直接雇っていることが多い。

ACTION 6

事務局	Action6（地域社会）に係る施策<32>～<35>について説明
会長	Action6 について意見や質問はあるか。
委員	<35>の No18 ふるさと納税に関して、納税額が増えている要因は何

	か。
創造戦略部	市内農家に呼びかけて、返礼品を増やしたこと等、これまでやってきたことの成果が出ていると考えている。
委員	増えている要因をしっかりと分析して、今後も継続して取り組んでいただきたい。
会長	令和4年度以前に取り組んでいなかったことで、令和5年度から始めたものはあるのか。
創造戦略部	返礼品のバリエーションを増やした。
会長	寄付者の出身地などの属性はわかるか。
創造戦略部	関東地域の方が多いが、出身地まではわからない。
委員	旅館関連の返礼品は全体の何割ぐらい実績あるか。
創造戦略部	令和5年度実績の約7億8千万円のうち宿泊券は3割程度であった。農産物は米類が多く、2割ほどを占めていた。
委員	ふるさと納税をしてくれた方に対して、あわら市のPR等はあるか。
創造戦略部	あわら市では、直接農家から配送するというものを売りにしている。
会長	<35>のNo3について、職員の超過勤務時間が増えているが、要因は何か。対策等は何か考えているか。
副市長	全体的に1人あたりの業務量が増えていることによる。事業のスクラップ化が難しく、効率化とDX化により対応していきたい。
会長	<33>のNo2各端末にインストールされている各種システムの質問集の件数について、これはどういった内容か。
創造戦略部	各システムのマニュアルの数である。
委員	<34>のKPIに合計特殊出生率があるが、あわら市は消滅可能性都市にあげられていた。人口減少対策チームでどのような対策をとっているのか。
創造戦略部	あわら市の現状を分析して、どのような施策があわら市で効果があるのかを考えながら、今後の方針を検討している。
副市長	行政の行う仕事はほとんど人口減少に関係してくると考えている。

	あわらの市民は地元には愛着がある方が多いと感じており、存続という意味ではそこまで不安視していない。 市政を全般的に適切に進めていくことが最終的に人口減少につながると思っている。
会長	ありがとうございました。これで、委員会は終了とさせていただきます。